

令和3年サワラ春漁の漁獲状況

香川県水産試験場 澤田

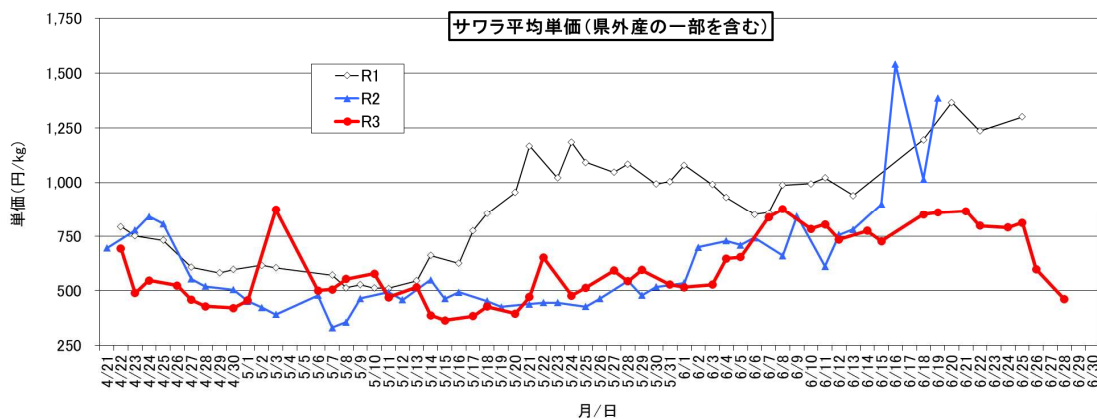
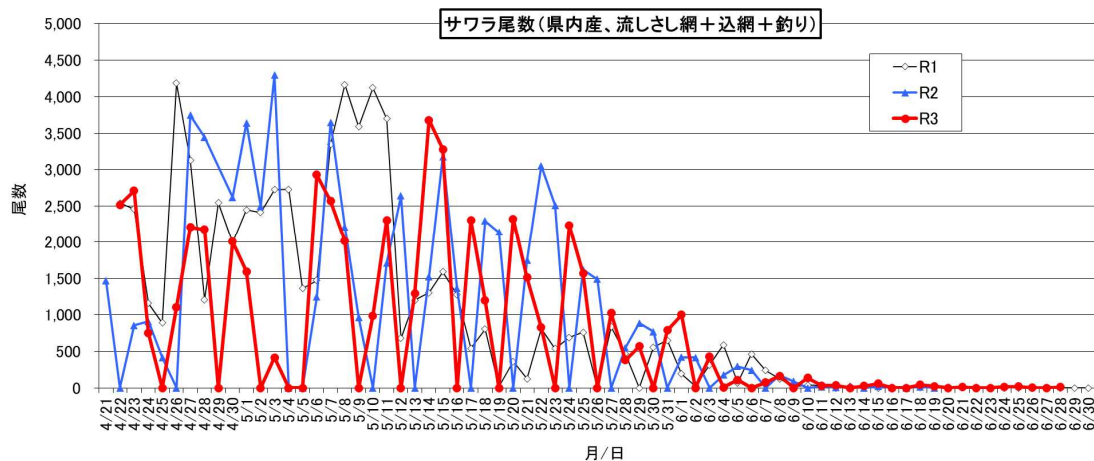
4月21日から開始した今年のサワラ流し刺し網漁（春漁）ですが、6月末ではほぼ終漁しましたので、香川県魚市場株の取扱データをもとに、漁獲状況をご報告いたします。

香川県魚市場（株）における取扱状況

- ・ 県内各地から本市場へ入荷されるが、他の市場や県外で取り扱われる分もある。
- ・ 県内産（流しさし網+込網+釣り）の銘柄別の尾数と単価の推移は、図のとおり。

【サワラ】

- ・ 初日（4月22日）の入荷量は2,518尾で、漁獲量の多かった一昨年と同程度であった。その後、増減はあるものの、5月の連休開始前まで徐々に減少傾向となった。5月6日以降、燧灘（主に伊吹）からの入荷量が大きく増加し、おおむね1,500～3,000尾/日で推移し、5月末以降は減少した。漁期中の香川県魚市場の1日の最大入荷量は5月14日の3,679尾。6月28日までの合計尾数は、51,549尾（R2：61,361尾、R1：67,608尾）となっている。
- ・ なお、この期間に0尾となっているのは、前日が休漁日であるため。休漁日数は、県下全体で週2日（原則、休市日前日の火曜日、土曜日）を基本としている。
- ・ 平均単価は、漁期開始時からたいへん低く、連休開始前までは、新型コロナウイルスの影響が色濃く出た昨年よりも低く推移し、5月15日には364円/kgとなった。その後は、400～550円/kgで推移し、6月に入ると入荷量の減少に伴い、600円以上の単価に上昇した。昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受け、単価は漁期を通して低い水準であった。



【サゴシ】

大部分は込網によるものである。

6月15日までの合計尾数は、1,333尾と少ない（R2：691尾、R1：5221尾）。

平均単価は、5月の連休開始前までは300円台と非常に低く推移しており、4月30日には、281円（キロ単価、税抜）まで下落したが、入荷量の減少に伴い、5月10日までは500円台で推移していた。5月11日以降は、再び単価が下がり、300円台で推移した。6月以降は多少値上がりしたものの、今漁期は昨年引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受け、総じて低価格であった。

